

令和3年度 学校評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念	農協の相互扶助の精神を受け継ぎ、理念、目的、目標、到達度など学生要覧や建学の精神に示している。次年度の新カリキュラム開始に向けて数年かけ検討した。今後も教育理念は変わらず運用していく。	自己評価を承認
II 教育目標	次年度より新カリキュラム開始されるため、看護基礎教育での到達度の検討を行い、準備を進めた。今後は、教育における卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)、教育改定編成・実施方針(カリキュラムポリシー)、入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)、段階別教育目標の内容を充実させていきたい。	自己評価を承認
III 教育課程・経営	カリキュラム進捗計画に沿って進行できている。学生にも進捗がわかるように、学生要覧、シラバス、進捗表、年間時間割などの配布や掲示、説明をしている。教員の教育・研究活動の充実については、授業や実習業務が重なっていることより、教員間で協力し時間確保に努めている。また、実習施設の指導力向上を図るため、教員と臨地指導者との合同会議を実施し、教育環境を整えている。臨地指導者の各研修紹介や参加協力を継続している。	コロナ禍が続く中で、病院・施設と調整を図り、実習をできる限り止めずにやれたことを評価します。
IV 教授学習評価過程	授業内容や展開プロセスなどの評価・検討を日々の業務、カンファレンス、カリキュラム検討会で行っている。5年に1度学校全体としての授業評価を実施している。学生が学習をわかる喜びへと発展していける工夫を検討している。また、思考を求める授業や実習においては、ルーブリック評価を検討している。教員は各研修会に参加し、教授内容・授業方法についての研鑽に努め、改善を図っている。	自己評価を承認
V 経営管理	専任教員の確保は、規程数(8人以上)は満たしている。実習と学内指導の兼務型であるため、ソフト面の充実のためにも人員確保をし教育体制を整え、業務改善を検討している。また、ハード面の課題があり、安全で充実した学習環境に向け検討している。	自己評価を承認
VI 入学	今後18歳人口は減少していく。静岡県西部地区の減少は緩やかではあるが、危機感をもって対応を考えていきたい。年々受験者数が減少傾向にあり、令和4年度の入学人数は定員に満たなかった。次年度は試験の方法等検討し、入学者確保に努めていく。	入学者が定員未達となり、推薦入試の指定校を拡大したとのことですが、入学定員における推薦入学者の基準を逸脱しないよう慎重に変更してください。また、社会人入試を実施していませんが、社会人に対する評価方法についても検討してください。
VII 卒業就職進学	国家試験は、全国合格率を上回り、過去5年間の平均では99%である。また卒業時の到達状況は教育目標1と2が高値傾向を示し、自己理解他者理解とともに、対象である生活者としての人間への興味関心を持った学びをしている。卒業生の成長や活動状況などは、各厚生連関連病院の報告より把握している。	就職後、早い時点で離職される人が多いとのことであるため、病院と連携して問題点を抽出し、改善に向けて取り組んでいただきたい。
VIII 地域社会国際交流	看護総合IV(広域看護活動)において、国際看護を教授している。海外看護活動経験者の講義を依頼している。地域活動としては、看護希望者の進学相談会への参加や関連病院・近隣クリニックなどの行事運営などのボランティア参加を引き続き継続的に実施していく。	自己評価を承認
ix 研究	日々の教育実績の評価・まとめを次に活かしていくように、教員の研究活動の意識向上、研究活動時間・環境の整備を検討している。今後は、関連病院や施設との共同研究も視野にいれていく。	自己評価を承認

※看護学校評価委員会 令和4年5月31日 場所:本校会議室
 委員長 森川友子 (看護学校経験者)
 委員 松井陽子 (卒業生)
 委員 佐藤比奈子 (JA静岡厚生連遠州病院看護副部長)
 委員 匂坂紀秀 (JA静岡県厚生連管理部人事課長)

事務局 藤田美保子 (学校長)
 深田兼司 (事務長)